

(令和5年度)  
学校自己評価書

園番号	園名
714	朱雀こども園

714朱雀こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育 活動 に 関 す る も の	(1) 教育・保育 目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が園の教育保育目標を理解し、年間計画を作成し実践する。</li> <li>保護者アンケートや学校評議員などの評価から教育保育活動の検証を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に全職員に方針を示し、子ども理解や保育について（研究主題など）職員で検討し、取り組んだ。</li> <li>保護者アンケートを実施し、懇談会や学年だよりで願いや取り組みなどを伝えてきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究主題では、学期ごとに実践してきたことを報告し合い、子どもの育ちや取り組みを振り返ることができた。</li> <li>保護者アンケートで、「園の教育・保育目標は適切であると思いますか」の項目で 98%が肯定的な回答をされた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>途中入園の方にも1年間大切にしたいことを伝えるようにし、保護者の方に周知できるようにする。</li> <li>次年度に向けて、本年度の課題を職員間で話し合い、方向性を明らかにする。</li> </ul>
		② 教育・保育計画の作成					
		③ 教育課程/全体的な計画の編成					
		④ 教育・保育活動の評価					
	(2) 教育・保育 内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の指導計画を見直し、学年ごとに計画を検討立案する。</li> <li>園内研修を計画的に行い、保育の資質向上に努める。</li> <li>日々の子どもの姿を基に保育者間で話し合い、発達に応じた環境構成や援助を明確にし、保育を行えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の保育内容や、0歳から5歳までつながった保育をするため、乳児棟・幼児棟が共通理解できるように会議を調整し時間の確保に努めた。</li> <li>園内公開保育も行い、カンファレンスで活発な意見交換ができた。また、ミドル職員が研修の企画運営を行い、職員間で学びを深めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開保育後のカンファレンスで課題を出し合い解決方法を探ることができた。また、各年齢の発達の理解や育ちを確認し、職員相互で学び合うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有する時間の確保や一人1回は公開保育に参加できる体制を整える。</li> </ul>
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が主体的に取り組み、心とからだ豊かになるように取り組みの過程を大切に作る。</li> <li>行事を通して、小学校や地域の方々との関わりも十分にとれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今できる最良の開催方法を考え、経験や学びを止めずに行事を行うことができた。</li> <li>地域の方とも交流を深め、周りの自然に関心を持ち、関わったり、試したりすることができた。</li> <li>2歳と4歳の交流も計画を立て行うことができ、小さい子への思いやりが育ってきている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施後、職員会議で子どもの姿や保育者のかかわり、保護者からの意見など振り返る時間を持った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その時々最善の方法を探り、実施できたことは良かった。今後も保護者や地域の方に、園の様子をより分かりやすく発信できる方法を模索し、地域の中での子育てにつながるようにしていきたい。</li> </ul>
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者自身が人権感覚を磨き、日々の保育の中で命の尊さや、一人一人が大切な存在であることを伝え指導していく。</li> <li>様々な人との関わりにより、豊かな心が育まれるような保育内容の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの姿を出し合い、子ども理解に努めた。反戦平和の集いや人権について考える集いを持ち、各学年で取り組んだ。</li> <li>日々の生活の中で、言われて嫌な気持ちになる言葉や行動について子どもと一緒に考える機会を持つことで、少しずつ相手の気持ちに気づき、言葉を選んで話すようになってきている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのクラスも友達をテーマに気持ちについて話し合う機会をもった。反戦については、身近に知っている大人も少なくなり、どこまで子どもに伝えるのが良いのか職員間で意見が分かれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者自身の人権感覚を磨き、言動や子どもに対する言葉かけ、日常の会話にも人権について意識できるように啓発する。</li> </ul>
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告・連絡・相談を綿密に行う。</li> <li>一人一人の幼児や保護者の思いに寄り添う。</li> <li>家庭との連携を図る。</li> <li>適切に実態を把握し、必要な場合は連絡をする。</li> <li>対処方針や指導計画が明確である。</li> <li>日頃より実態把握・早期発見に努めている。</li> <li>各学級の状況を園組織として共有できている。</li> <li>保護者や地域と連携できている。</li> <li>組織的に迅速に対応する体制が整備されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝礼や会議で報告し、職員全体で共通理解や情報周知できるように努めた。</li> <li>保護者の方には、毎日朝の立哨時に挨拶を交わし、話しかけることで質問や悩みなどを聞かせていただくことができた。</li> <li>連絡なしの欠席児がいる場合は、こちらから電話をかけ確認する。</li> <li>幼児の小さな発信を見逃さず、気になることがあれば、報告、連絡、相談をし、全職員で話し合い手立てについて考え関わるように努めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「園には子どものことで気軽に相談できるような雰囲気や体制があると思いますか」について、95%以上の肯定的評価であった。</li> <li>アンケートの中に、朝登園時に挨拶したり、コミュニケーションをとったりしやすくなったとご意見をいただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との信頼関係を構築するために、今後もコミュニケーションをとっていく。</li> <li>日々保護者と立哨時にアンテナを張り、ちょっとした変化も見逃さないように心がける。</li> <li>子どもの小さな発信やいつもと違う表情などを見逃さず、気になることがあれば、職員間で話し合う。</li> <li>アンケートの中に、もっと先生たちとお話したいのですが、何を話したらいいのかわかりませんとのご意見もいただいたので、今後もどの保護者とも意識して話していけるよう職員間で連携を図る。</li> </ul>
		② 教育相談・幼児理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について					
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人を観察し、課題を明らかにして、具体的な指導方法を共通理解し取り組む。</li> <li>保護者と連携し、成長していく子どもの姿を共に見守り、集団の中で一人一人の力を発揮できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援担当が定期的にコーディネーターと一緒に話し合える場を作り、手立てについて話し合うことができた。</li> <li>ミドル職員の企画運営による特別支援研修を行うことができた。その中で、乳児棟、幼児棟の子ども姿を出し合い、どのようにかかわっていくのが良いか話し合うことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援コーディネーターと連携し発達の実態を把握し、一人一人に合った手立てについて話し合い実践する中で、保護者の方からの相談も増え、家庭と共に進めることができた。</li> <li>就学に向けて、各学校保護者と情報共有できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援を要する子どもが増加する傾向にあるため、研修を重ねたり体制を整えたりして適切な手立てができるようにする。</li> <li>保護者に寄り添い、関係機関との連携をより一層密にする。</li> </ul>
		② 個々に応じた特別支援教育の内容					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 家庭との連携					
		⑤ 関係機関との連携					

(令和5年度)  
学校自己評価書

園番号	園名
714	朱雀こども園

714朱雀こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の教育ビジョンや園経営を伝え、リーダーシップを発揮すると共に、職員一人一人の指導力が最大限に発揮できるようにする。</li> <li>職員との信頼関係を密にし、風通しの良い職場環境を作る。</li> <li>職員の園務分掌の適正化を図る。</li> <li>学校関係者評価、保護者アンケートを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育ビジョンを作成し、具体的な取り組みを職員、保護者、地域に発信した。</li> <li>職員が意欲的で前向きに業務ができるように、役割を分担した。また、乳児棟、幼児棟のリーダーを決め定期的に情報交換するように伝えた。</li> <li>問題が出てきたときには、学年代表で話し合ったり、アンケートを取ったりし、一人一人の考えを聞き、良い方法を探っていくことができた。</li> <li>職員とは、できるだけ毎日話ができるように努めたが、難しいときもあり、面談を行い進捗状況などを聞くようにした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>分園や職員数が多い中で、全職員へ周知することや両棟の連携を図ることの難しさを感じている。</li> <li>評議委員の方からは、園の雰囲気や風通しの良い園だと評価いただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に教育ビジョンを職員に示し、職員一人一人が理解して進めていけるようにする。</li> <li>定期的に面談を行い、悩みを聞いたり手立てについて共に考えることができるようにする。</li> </ul>
		② 園経営目標・方針					
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携					
		⑤ 会議の運営と位置づけ					
		⑥ 会議の結果					
		⑦ 職場の人間関係					
		⑧ 園評価の実施					
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの姿に基づき研究主題を設定し、職員全員で取り組む。</li> <li>園内研修を計画的に行い、資質向上に努める。</li> <li>園外研修に参加し、学んだことを報告書にし回覧したり、伝えたりし保育に活かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内の公開保育の年間計画を立て、他園の公開保育も含め、全員が1度は参加できるように表を作成し記入する方法を取った。また、不参加の職員には、様々な研修の知らせをし、保育の質向上に向けて学びの場を確保することに努めた。研修での学びは、報告書を作成してもらい回覧し、全職員で共有できるようにした。</li> <li>ミドル職員が、責任を持ち活躍できる場として研修の企画運営や公開保育時の記録・カンファレンスを行えるように計画した。その後、アンケートを実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開保育での学びは大きく、また、カンファレンス時に悩みなどを共有し、共に手立てについて考えることができた。</li> <li>また、昨年度の反省より今年度は前半に全学年の公開保育を実施し、明日への保育へのつながりをもたせることができた。</li> <li>園内研修では、ミドル職員は事前の準備や研修方法を探ことで学びや気づきがあった。受講する保育者も活発な意見交換や質問などがあり、保育の質向上につながったと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期終わりに研修ノートを提出してもらい状況を把握する。</li> <li>年度終わりに全職員の自己評価のアンケートを実施。園、自己の課題を明らかにする。</li> <li>また、少し上の業務を行うことで、自信を持ち職員の意欲を高めていくことができるようにしていく。</li> </ul>
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施					
		③ 園外の研修への積極的参加					
		④ 園外研修内容の共有					
		⑤ 研修成果の普及					
	(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全計画、防災計画を作成し、迅速かつ適切な対応ができるよう、緊急時の連絡体制を整える。</li> <li>幼児を疾病、事故、災害、不審者から守り、生命と健康を維持する。</li> <li>地域と連携した防災訓練を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校と連携し、一緒に危機管理の体験をすることができた。また、女性防災の方に来ていただき、避難訓練や消火訓練について教えていただくことができた。</li> <li>看護師を迎えてのAED研修や怪我、病気について(けいれん、てんかんなど)の話も聞き、知識や対応についても深めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1度の避難訓練や、引き渡し訓練も行うことができ、園児の防災等に関する意識が高まっている。</li> <li>また、避難訓練だよりを作成し掲示することで、どのように行っているか、気を付けること等啓発することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携を取り、訓練や防災教室を実施する。</li> <li>地震や災害について園で行っている訓練の様子を、ホームページや玄関に掲示し、保護者に啓発する。</li> </ul>
		② 防災計画の立案					
		③ 危機管理体制の整備					
		④ 安全指導の工夫改善					
		⑤ 家庭との連携					
		⑥ 関係機関との連携					
	(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画を作成し、実践する。</li> <li>保健・健康に関する情報は、紙面で保護者に配布したり玄関に掲示したりし、意識していただけるように啓発していく。</li> <li>食育を通して、健康な体づくりを推進する。</li> <li>アレルギー対応児や熱性けいれんをもつ子どもについて、職員間で共通理解し対応についてなど確認していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤師より、手洗い教室を実施してもらったことで、正しい手洗いの仕方や風邪の予防などについて学ぶことができた。</li> <li>日々の子どもの様子を丁寧に観察し、普段と違うときには検温したり、保護者と連絡を取り、その時々にあった対応をするように心がけた。</li> <li>アレルギー会議も毎月適切に行い、安全な提供ができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症ボードを活用し、流行している病気に関して手紙を掲示し注意喚起を行った。</li> <li>献立のメニュー表を作成することで、子ども達が読み食への興味や関心につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児が自分の体や健康について意識がもてるような指導方法を探る。</li> <li>健康管理について、職員間で話し合い、保護者に伝え家庭とともに進めていく。</li> <li>熱性けいれんやてんかんなど子どもの既往歴などについて把握し、対応についても全職員に周知する。</li> </ul>
		② 心のケアや健康相談の体制の整備					
		③ 健康観察、健康管理能力の育成					
		④ 関係機関との連携					
		⑤ 昼食の衛生管理					
	(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の会合、催しに積極的に参加し、クラスだよりやホームページ・ニュースなどで園児の様子や取り組みを発信する。</li> <li>年3回の学校評議員会を開催し、参観や意見交流を行い、評価を仰いで、地域と連携して保育活動の改善に努める。</li> <li>小学校や園周辺の学校園と連携をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の会議や催しに参加し交流することができた。また、2か月に1度、たよりを発行し園について知ってもらうことができるように努めた。</li> <li>評議委員会を年に3回行い、運動会や生活発表会の予行練習を見ていただき園の取り組みを知らせたり意見をいただいた。</li> <li>小学校1年生との交流に向け、互いの子ども様子を参観し伝えたり方向性について話し合ったりすることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「園では地域の方との豊かな触れ合いをとして豊かな心の成長に取り組んでいると思いますか」に対し88%の肯定的な回答をいただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に根差したこども園となるように、また、さらなる交流ができるよう地域の方にも相談しながら進めていく。</li> <li>ニュースでは、昨年と違う園児の様子をお知らせできるようにする。</li> <li>小学校と地域と交流を深めていく方法を探り、一緒に実践できるように働きかけていく。</li> </ul>
		② 園(保育)公開					
		③ 小学校との接続・連携					
		④ こ幼保との連携					
⑤ P T A・保護者会の活性化							
⑥ 地域教育協議会との連携							
⑦ 学校関係者評価の実施							
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設点検を職員で行い、危険箇所や改善箇所の把握をし、整備する。</li> <li>遊びの環境の見直しを全職員で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方のお借りしながら、清掃活動や環境整備で園内を美しくするように努めている。職員が遊具点検を行うことで危機管理意識を持てるようにしている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内環境の改善・有効活用に向けた職員間の共通理解の機会をもつことができた。施設内の不備な箇所については、課と連携し改善している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外廊下による雨の吹きさらしで廊下が濡れ危険だとアンケートにあった。構造上仕方がない面もあるが、安全に歩ける方法を課と一緒に相談し取り組んでいく。</li> </ul>	
	② 施設設備の有効利用						
	③ 施設設備の管理						
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の管理について、全職員で共通理解する。</li> <li>個人情報の取り扱いには十分注意し、管理と保護を徹底する。</li> <li>情報管理の研修に参加し、職員の意識向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルカメラは、管理簿を使用し適切な保管を行った。</li> <li>情報機器や個人情報を扱う書類については、保管場所を決め施錠している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理簿のチェックを行い、実施できているか確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報について、取り扱いや管理について職員で徹底する。</li> </ul>	
	② 公文書の作成						
	③ 個人情報の管理・保護						
	④ 情報の収集						